



株式会社 常磐植物化学研究所
CSR Report 2018
(社会・環境活動レポート2018)

対象期間 : 2017年4月～2018年3月

発行日 : 2018年8月1日

植物のちからを健康に。

目次

社会への貢献を目指して	2
社会地域とともに	
【千葉県立佐倉高等学校:佐倉アカデミア(SSH指定校)】	3
【佐倉市立根郷小学校:実験教室】	3
【千葉大学:ESDフォーラム】	3
【千葉県立成東高校:職業研究講演会】	4
【市原中央高校:ハーブ園講習】	4
【日本橋薬祖神への奉納】	4
【周辺美化活動】	4
【防災訓練】	4
【献血】	4
【ハーブ植物園を通じたお客様との対話】	5
【佐倉チューリップフェスタへの協賛】	5
【薬用植物に関する情報提供】	5
従業員とともに	
【労働安全衛生に関わるマネジメント体制】	6
【地域消防団への参加】	6
【人と人が繋がる職場づくり】・【キャリア支援】	7
【ワークライフバランス】・【女性の活躍支援】	7
【新入社員歓迎 tokiwaフェスタ】	7
【軟式野球部】	7
【年末レクリエーション】	7
植物化学の発展のために	
【研究機関、大学との共同研究】	8
【自社研究報告】	8
【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】	8
【植物化学に関連する各種加盟団体】	8
持続可能(サステナブル)な社会のために	
【ゼロエミッション活動】	9
【薬用植物の栽培】	9
【水質に配慮した生産活動】	9
【グリーン調達・グリーン購入】	9
環境活動レポート(エコ・アクション21)	
エコ・アクション21とは	10
環境方針	10
登録事業所の概要・環境経営組織図	11
環境活動の取組計画と評価	12・13
2016年度 環境活動計画	14
中期目標(2016年～2018年)	14
環境関連法規の遵守状況	15
代表者による評価と見直し	15

常磐植物化学研究所

CSR Report 2018

【社会への貢献を目指して】

常磐植物化学研究所のCSR Report 2018をご覧ください、誠にありがとうございます。

弊社は、1949年の設立当初から植物化学の成果の医薬的応用によって、社会公衆の福祉増進へ寄与することを掲げ、社員の幸福と社会の発展に貢献する良き企業市民であることを経営理念の柱のひとつとしています。2008年より環境経営システムを導入し、弊社の社会・環境活動をご報告するCSRレポートを2009年より発行しています。本CSR Reportで弊社の取組を紹介しております。ご高覧いただけると幸いです。

今後も事業活動を通じて植物化学と地域社会の発展に貢献して参ります。



株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

「設立趣意書」

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。

したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。

若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、本社設立の趣旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月
株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人

「経営理念」

- 1.植物の力を引き出し、新たな価値を創造します。
- 2.最高の技術で、最高の製品を製造します。
- 3.社員の幸福と社会の発展に貢献します。

「CSR基本理念」

私たちは、植物と共にあらゆる可能性を追求することにより社会へ貢献します。持続可能な企業活動を行うために、植物資源の調達から、植物化学研究及び開発加工、製品化、すべてにおいて、地球環境への影響を重視し、積極的に保全活動に努めます。また、薬用植物の試験栽培、科学教育の推進を通じて、植物化学の発展、植物とヒトの豊かな社会作りに貢献します。

当社は実験講座、体験実習を通じて科学が身近にあることを体感してもらい、次世代の科学技術系人材の育成の貢献に取り組んでいます。

戦後初の植物化学企業として、製品の販売だけでなく、科学発展の一助になればと考えています。

子どもが科学技術に親しみ、学ぶことができる環境や科学技術に才能を有する子どもを見出し伸ばすことができる環境を提供するため、理数学習の充実に努めています。

千葉県立佐倉高等学校:佐倉アカデミア(SSH指定校)

7月21日に第6回佐倉アカデミアを実施しました。
千葉県立佐倉高等学校の1年生18名を対象に、常磐植物化学研究所にて植物成分の精製について講義・実習を行ったのち、工場施設及びハーブ園の見学を行いました。

施設見学を行うことで、科学が実際に利用されている生産現場を知ってもらいました。この佐倉アカデミアが植物に興味・関心を持つきっかけになればと考えています。



佐倉市立根郷小学校:実験教室

1月30日に根郷小学校の理科クラブの生徒さんに、「植物の色を調べてみよう！植物成分を味見してみよう」ということで 実験教室を行いました。

野菜や果物から得られた色の性質を比べて、その特徴は自分たちの生活の中でどんなものに活かされているか皆で話し合いました。また、砂糖と比較してとても甘くて、でも苦みのある初めてのカンゾウの味に驚いている様子でした。

集まってくれた4年生から6年生の30名の子どもたちは、実験の結果について、一生懸命観察・考察を行っていました。

45分という短い時間でしたが、今回の実験教室は、科学についてさらに興味を持つきっかけになったようです。



千葉大学:ESDフォーラム

10月21日に、千葉大学にてESDフォーラムが開催されました。ESDとは「持続可能な開発のための教育」という意味で、常磐植物化学研究所は、「ESDに関する植物化学分野からのアプローチ」というタイトルで、環境保護への取り組みや植物による豊かな社会づくりについて講演しました。





千葉県立成東高校:職業研究講演会

10月17日に千葉県立成東高校で職業研究講演会が行われました。この会は、高校OBの職業体験を後輩に伝授し将来の進路決定に役立ててもらうことを目的としています。公務員、観光業など10ジャンルから構成されており、今回は当社からハーブ園の園長が、1年生を対象に研究の立場から講演しました。



市原中央高校:ハーブ園講習

9月25日に市原中央高校の生徒さんが当社ハーブ園へ来園し、ハーブ園園長によるハーブ講習や、園内見学を行いました。ハーブ園ではバジルやカレープラントのにおいをかいだり、エディブルフラワーを食べたり、体験を通じてハーブを学んでもらいました。



【日本橋薬祖神への奉納】

10月17日に日本橋の薬祖神で薬祖神祭が行われ、薬への感謝と、一年の無病息災をお祈りしてきました。

今後も、歴史ある日本橋の薬祖神社の発展に協力してまいります。



【周辺美化活動】

2007年11月より開始し3月の活動で111回をかぞえました。会社周辺だけでなくJR佐倉駅のロータリーへと当初よりエリアを広げるとともに、2012年11月(第49回目)からは美化活動に加え挨拶運動を開始しました。「挨拶 地元を元気に！」の合言葉の下、おそろいのジャンパーを身につけて、挨拶活動も実施しています。



【防災訓練】

本社では年1回、全員参加の防災訓練を行っています。今年も12月28日に行いました。移動した先では、防火委員会の方から消火器の使い方の講習を受けた後、実地訓練を行いました。



【献血】

毎年、従業員が献血に協力しています。この献血は就業時間中に従業員が自由に参加できることから、一番協力しやすい社会貢献の一つとして、実施しています。





【ハーブ植物園を通じたお客様との対話】

本社工場に隣接したハーブ園では、一般の植物園では見かけることの少ない有用植物を含む、100種類を超える西洋ハーブや東洋ハーブを無料で見学していただいています。また、facebookを通じて情報を提供しています。



＜お客様の憩いの場として＞

毎月1回、グリーンアドバイザーの皆様とともにハーブ園を整備する日を設け、様々なハーブの植え付けや収穫、切り戻し、株上げなどを行っています。皆様、楽しみながら取り組んでいただいています。ハーブに関するレクチャーや、寄植え体験などのワークショップも開催しています。

＜ハーブを身近に感じてもらう活動＞

11月17日に千葉県立桜ヶ丘特別支援学校へローズマリーやカナダトウヒを寄贈させていただいたほか、3月30日、佐倉くるみ幼稚園にニッキの木や、ブルーベリーの木、ミントの苗を3種類寄贈するなど、ハーブを身近に感じてもらうために様々な活動を行っています。



【佐倉チューリップフェスタへの協賛】

印旛沼のほとりにある佐倉ふるさと広場で開催される、「佐倉チューリップフェスタ」に協賛しています。昨年11月に植えた1500球の球根が芽吹き、4月に咲きそろいました。4月には切り花体験イベント、5月には球根の掘り取りを行い、11月には次の年に向けて5000球の球根を植え付けました。



【薬用植物に関する情報提供】

Webサイト内の「薬用ハーブ辞典」(<http://www.tokiwapph.co.jp/herbs/>)では、28種類の西洋ハーブや東洋ハーブについて、学名、成分、概要、生理活性等の情報を提供しています。植物成分に関する情報の発信を通じた薬用植物の有効利用へ、今後も内容を充実させていきます。



従業員とともに

従業員が安心して働けるよう、労災事故件数0を目標に、安全な職場づくりに取り組んでいます。

☆人の健康と安全はすべてに優先し、労災事故ゼロ化活動に取り組んでいます。

☆一人ひとりの安全意識の向上、設備面・作業面のリスク低減にむけた活動を継続しています。



【労働安全衛生に関わるマネジメント体制】

厚生労働省の指針に基づく、労働安全マネジメントシステムに沿い、安全な職場づくりに取り組んでいます。毎月「安全衛生委員会」を開催し、「リスクアセスメント」による潜在的リスクの低減活動を中心に、全員参加の安全衛生活動を推進しており、労働安全面のさらなる向上に取り組むとともに、メンタルヘルスに重点を置いて衛生・健康面の取り組みを強化しています。また、5S活動、安全ルールの遵守、リスクアセスメントの徹底、教育・支援の強化、災害撲滅のPDCAサイクルの確実な実行に努めています。

＜安全衛生状況確保のための教育＞

- ・労働安全教育（外部講師を招いての安全教育（5S教育・フォークリフト始業前点検））
- ・リスクアセスメント担当教育
- ・各工程におけるリスクアセスメント教育
- ・機械操作によるリスクアセスメント教育
- ・技能講習・特別教育の受講
- ・外部講習への参加

＜自主的な安全衛生管理の向上＞

- ・安全衛生基準の設定
- ・安全衛生委員会会議の実施
- ・全国安全週間、全国労働衛生週間、長期連休明け社内独自安全週間の設置
- ・安全衛生委員の構内巡視と従業員への安全遵守
- ・フォークリフト特定自主点検の実施
- ・保護具着用の徹底
- ・作業手順の周知と遵守

＜健康の保持促進と快適な職場環境の形成＞

- ・ストレスチェックの実施
- ・ノー残業デーの設置
- ・労働時間管理、長時間労働者の状況確認とヘルスケアサポートの推進
- ・産業医との健康相談窓口の開設
- ・5S活動の実施
- ・熱中症予防対策の実施および熱中症が疑われる場合の迅速な対応

＜資格取得促進法令遵守＞

- ・危険物取り扱いに関する資格取得の奨励
- ・フォークリフト技能講習



上記4つを目標に掲げ、快適且つ安全なより良い職場環境作りを目指しています。



【地域消防団への参加】

佐倉市消防団第4分団に参加しています。
佐倉市の防災訓練に参加すると共に
歳末警戒活動などを通じて、火災予防を呼びかけています。



従業員とともに

一人ひとりがやりがいと誇りを持って働くことができるよう取り組んでいます。



【人と人が繋がる職場づくり】

会社組織で働く上で重要であるのは、社員がお互いに尊重し合い、認め合うことです。社員全員が同じ文章を読み、感想を述べ合い、美点重視で意見交換をする、「社内木鶏会」を実施しています。それぞれの考え方を尊重し、認め合うことで、仕事をする環境がより良いものになっています。



【キャリア支援】

OJTを通じ自立型人材を育成します。全ての社員に成長する機会を与えられるよう階層別、テーマ別研修を設けています。最近では、管理職のヒューマンスキルを高める研修や新人・若手社員の早期戦力化に向けた研修に力を入れています。



【ワークライフバランス】

長時間労働の削減と、休暇の取得促進に取り組んでいます。朝または夕方における2時間休暇の導入や、月に一度のノー残業デーを実施しました。また、年に1度のハッピーファミリーデー（公休及び記念品）を付与する取り組みを継続しています。



【女性の活躍支援】

女性の活躍支援に取り組んでいます。新任管理職への研修などを実施。女性がこれまで以上に活躍できる職場環境づくりを展開してきました。お子様の成長に合わせて、柔軟に時短勤務制度を取り入れています。



【新入社員歓迎tokiwaフェスタ】

社員一同から、アンスリュームの鉢植えとケーキ、そしてみんなの笑顔の写真の横に新人さんたちへのメッセージを入れた笑顔通信をプレゼント。みんなでおいしい焼肉や料理を楽しみました。最後の記念撮影時まで笑顔にあふれた楽しい会でした。



【軟式野球部】

第34回千葉県食品製造健康保険組合軟式野球大会に参加しました。とても見ごたえのある試合となりました。



【社員旅行】

7月7日は、社員旅行で熱海を訪れました。熱海のパワースポットである来宮神社に参拝し、樹齢2000年を超える大楠にパワーをいただき、熱海湾をクルーズ。その後、箱根方面に移動して、クラフトを楽しんで帰ってきました。



【年末レクリエーション】

年末最終日には餅つきが行われています。つきあがったお餅は切り分けられ、きな粉もちやお雑煮にいただきます。お供え用の鏡餅も作りました。一年の労をねぎらい、お正月を迎えます。



植物化学の発展のために

常磐植物化学研究所は植物化学の発展への貢献活動の一環として、関連する学会、機関、大学等への参画、協賛、共同研究等を行っています。

【研究機関、大学との共同研究】

(研究機関) 国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人理化学研究所、かずさDNA研究所、
国立精神・神経研究医療センター、国立医療長寿健康センター、富山県薬事研究所、
東京都医学研究所

(大学等) 東京大学、大阪大学、京都大学、千葉大学、北里大学、星薬科大学、東京医科歯科大学
帝京大学、学習院大学、University of Malaya、新潟大学、昭和薬科大学等

【自社研究報告】

- ・漢方エキス製剤の実用化促進のための安全性・有効性を担保する品質評価技術に関する研究
- ・Quantification of terpene trilactones in Ginkgo biloba with a 1H NMR method
- ・Ephedrine Alkaloids-Free Ephedra Herb Extract, EFE, Has No Adverse Effects Such as Excitation, Insomnia, and Arrhythmias
- ・Safety and Toxicological Evaluation of VENETRON® -A Botanical Health Product-
- ・睡眠の質、及びストレスに対するベネトロン®含有食品の改善効果 に関する英語の論文(2018)
- ・Two flavone C-glycosides as quality control markers for the manufacturing process of ephedrine alkaloids-free Ephedra Herb extract (EFE) as a crude drug preparation(2017)
- ・A novel mode of stimulating platelet formation activity in megakaryocytes with peanut skin extract(2017)
- ・目の疲れによる症状に対するビルベロン®含有食品の改善効果 に関する英語の論文(2017)
- ・サートマックス米国特許 サーチュイン活性化剤
- ・NMRを用いたイチヨウ葉エキス製品分析の実用性評価(2017)
- ・Accumulation of proanthocyanidins lignin deposition in buff-pigmented soybean seed coats may lead to frequent defective cracking
- ・Protective effects of Lepidium meyenii (Maca) aqueous extract and lycopene on testosterone propionate-induced prostatic hyperplasia in mice
- ・漢方製剤の薬効を担保する品質評価手法に関する研究(2017)
- ・Isolation and characterization of antimutagenic components of Glycyrrhiza aspera against N-m

【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】

日本学術振興会、植物化学シンポジウム(植物化学研究会)、日本生薬学会、
日本ハーブ療法研究会、日本植物細胞分子生物学会、日本薬史学会、

【植物化学に関連する各種加盟団体】

(公社) 東京生薬協会、(公社) 東京医薬品工業協会、日本漢方生薬製剤協会、
日本医薬品原薬工業会、(一社) 千葉県製薬協会、(一社) 日本食品添加物協会、
(公財) 日本健康・栄養食品協会、(一社) 日本栄養評議会、(一社) 日本健康食品規格協会、
化粧品原料協会、甘草工業懇話会、ステビア工業会、(一社) 日本ブルーベリー協会、
千葉県食品産業協議会

持続可能(サステナブル)な社会のために

「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」をめざし、地球環境と調和した事業活動を通して環境負荷の低減に取り組んでいます。



【ゼロエミッション活動】

植物資源を無駄なく使用し、廃棄するものを少なくすることにより、環境への負荷を軽減します。

植物エキスの製造後に排出される搾りかす、及び排水処理場の余剰汚泥を肥料へリサイクルするなどの取り組みを行っています。
リサイクルされた肥料は作物の栽培に利用され、新たな植物資源を生み出しています。



植物エキス製造



栽培



残渣堆肥化



【薬用植物の栽培】

(薬用植物園)

薬用植物や生活に役立つハーブなどを集め、約5000m²のハーブガーデンを設け、無料で広く市民に公開しています。皆様に見ていただけるようになってから16年目になりました。

(日本イチョウファーム)

新地町に広大な栽培農場を持つ日本イチョウファームは、長年にわたる栽培技術の研究と無農薬・化学肥料を用いない有機農業で、最高品質のイチョウ葉を生産しています。

その中でも、研究栽培農場の面積は2.0ヘクタールと最も大きく、高品種のイチョウ葉を生産するための試験栽培をすすめています。



【水質に配慮した生産活動】

工場での水資源の無駄づかいをなくすための改善を積み重ねるとともに、使用後の排水をきれいにし自然に還すために水質保全に取り組んでいます。

工場に併設されている排水処理設備においては、「活性汚泥処理法」を採用しています。
微生物が排水の汚れである栄養成分を食べることにより、汚れを取り除いています。



【グリーン調達・グリーン購入】

グリーン調達とは、原材料・資材・設備などの購入に際し、有害物質を含まない、資源が有効に活用されている、など環境に配慮した物品・サービスを優先的に選択することです。

持続可能な社会の構築のために、使用する物品について、環境負荷ができるだけ小さい原材料・資材・設備等の購入をめざします。

常磐植物化学研究所は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21認証登録制度」に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。またエコアクション21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

エコアクション21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、活動し、継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。

エコアクション21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を審査し、認証・登録する制度がエコアクション21認証・登録制度です。



エコアクション21
認証・登録番号0003872

環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の強化
環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。
2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進
エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。
3. 循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進
廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。又、グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。
4. 環境関連法規の遵守
環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。
5. 環境方針の周知と社内教育の推進
地球環境と共栄していくための教育を行い、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。
6. 地域の人々との共生
地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2018年4月1日

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長

立崎 仁

登録事業所の概要・環境経営組織図

事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地 <https://www.tokiwapl.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 生産本部 佐倉工場 部長 : 戸張 雅人
担当者 EA21事務局 : 米山 拓 TEL 043-498-0007

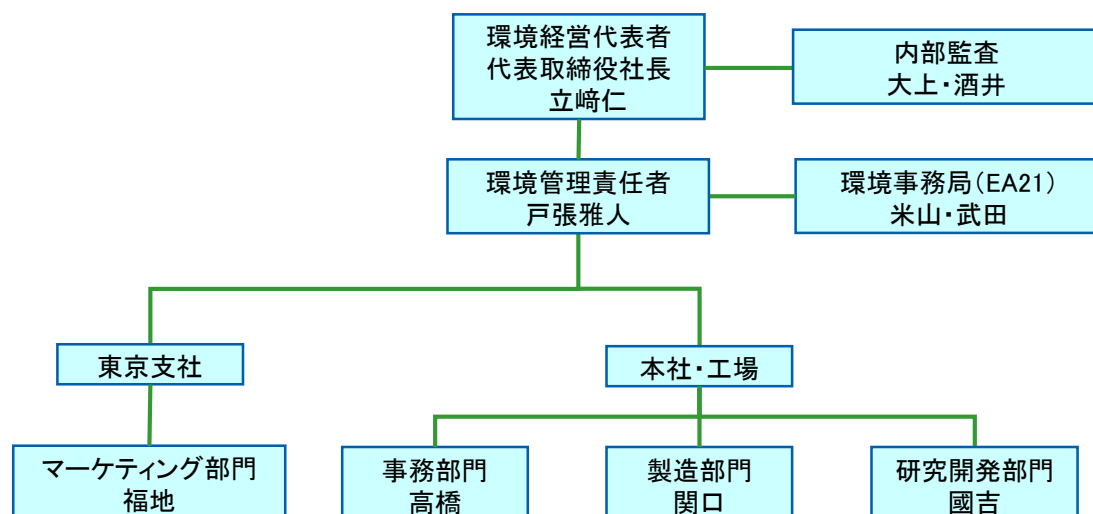
事業内容(認証・登録の範囲)

医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売
認証・登録範囲 全組織(本社・工場及び東京支社)及び全活動

事業規模

資本金	7,750万円	
主要製品生産量	138 t/年	
従業員	本社・工場 93名	東京支社 13名 (2018年4月1日現在)
工場延べ床面積	本社・工場 9,296 m ²	東京支社 138 m ²

環境経営システム組織図



環境活動の取組計画と評価

■ 中期目標(2016年~2018年)

	項目	基準値 (2013~2015年度平均)	2016年度	2017年度	2018年度
本社・工場	二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,338 t-CO ₂	1,331 (0.5%節減)	1,328 (0.7%節減)	1,324 (1.0%節減)
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,538 t-CO ₂	2,525 (0.5%節減)	2,520 (0.7%節減)	2,513 (1.0%節減)
	一般廃棄物の削減	38.7 t	38.3 (1.0%削減)	38.1 (1.5%削減)	37.9 (2.0%削減)
	産業廃棄物の削減	74.4 t	73.7 (1.0%削減)	72.9 (2.0%削減)	72.2 (3.0%削減)
	総排水の節減	107,570 m ³	106,494 (1.0%節減)	105,419 (2.0%節減)	104,343 (3.0%節減)
	化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
	グリーン購入の推進	33品目	36品目(10%増加)	40品目(20%増加)	43品目(30%増加)
	食品廃棄物リサイクル率の維持	98.0%以上	現状維持	現状維持	現状維持
東京支社	二酸化炭素排出量(電力)の節減	6,300 kg-CO ₂	基準値への低減	基準値以下を維持	基準値以下を維持
	一般廃棄物の削減	307 kg	現状維持	現状維持	現状維持
	総排水の節減	100.3 m ³	基準値への低減	基準値以下を維持	基準値以下を維持
	グリーン購入の推進	6品目	7品目(20%増加)	8品目(40%増加)	9品目(50%増加)

※電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2015年の値(調整後) 0.496 kg-CO₂/kWhを使用する。

■ 2017年度環境目標及びその実績

項目		年度	全 社			本社・工場			東京支社		
			2015年度	2016年度	2017年度	2015年度	2016年度	2017年度	2014年度	2015年度	2016年度
二酸化炭素排出量(電力)の節減 〔目標値〕		t-CO ₂	1,447 [1,510]	1,377 [1,337]	1,400 [1,334]	1,439 [1,504]	1,370 [1,331]	1,394 [1,328]	7.5 [6.2]	7.2 [6.3]	6.9 [6.3]
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 〔目標値〕		t-CO ₂	2,781 [2,626]	2,523 [2,525]	2,530 [2,520]	2,781 [2,626]	2,523 [2,525]	2,530 [2,520]			
二酸化炭素総排出量の節減 (対売上比)		変化量 (%)	-3.5	-13.6	-1.4						
一般廃棄物の削減 〔目標値〕		総量 (t)	41.6 [36.6]	39.3 [38.6]	38.1 [38.4]	41.3 [36.2]	39.0 [38.3]	37.9 [38.1]			
産業廃棄物の削減 〔目標値〕		総量 (t)	98.3 [59.6]	111.8 [73.7]	111.8 [72.9]	98.3 [59.6]	111.8 [73.7]	111.8 [72.9]			
総排水の節減 〔目標値〕		総量 (m ³)	125,545 [97,826]	122,375 [106,594]	86,941 [105,519]	125,430 [97,720]	122,289 [106,494]	86,850 [105,419]			
総排水の節減 (対売上比)		変化量 (%)	+26.8	-8.7	-30.6						
化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	変化量 (%)	-6.1	+14.9	-38.1	-6.1	+14.9	-38.1			
グリーン購入の推進 〔目標値〕		追加 品目数	12 [3]	7 [4]	5 [4]	9 [2]	5 [3]	3 [3]			
食品廃棄物リサイクル率の維持 〔目標:リサイクル率80%以上維持 持〕		リサイクル率(%)	99.5	98.3	98.3	99.5	98.3	98.3			
参考／製品の拡売		生産量(t) 上段:エキス製品 品下段:液剤製 品	138 290	143 152	156 107	138 290	143 152	156 107			

※2015年度の電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2012年の値(調整後) 0.525 kg-CO₂/kWhを使用する。
2016年度・2017年度の電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2015年の値(調整後) 0.496 kg-CO₂/kWhを使用する。

環境活動の取組計画と評価

2017年度 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み評価

本社・工場

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・休憩時間中の照明の消灯・エコプロ導入電気使用量削減	目標: 1,328 t-CO ₂ 実績: 1,394 t-CO ₂ 95.3 %	売上増の中、節減目標の達成には至らず、今後の工場稼働の拡大と、益々の温暖化による作業環境の変動を見据え、目標の再設定や新たな取組みの立案の必要がある。
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 ・エコドライブ運動の推進・蒸気潜熱低減、ボイラー管理強化	目標: 2,520 t-CO ₂ 実績: 2,530 t-CO ₂ 99.6 %	売上増の中、生産の都合と、地道な蒸気漏れの補修によりガス使用量はほぼ横ばいで、またフォークリフト2台の電動化を実施し、前年度レベルの排出量となった。次年度においては、ボイラー設備の更新と蒸気ラインの動線改善による、更なる排出量の節減に取り組み、努力を継続していく。
一般廃棄物の削減 ・消耗品の購入管理 ・分別BOXの管理、リサイクル意識向上	目標: 38.1 t 実績: 37.9 t 100.5 %	リサイクルの意識は定着して、活動は継続できている。今後も更なる意識向上と、管理および削減努力を継続していく。
産業廃棄物の削減 ・有機溶媒の省力化・産業廃棄物管理	目標: 72.9 t 実績: 111.8 t 65.2 %	前年度同様、長期滞留していた構内不要物(設備、半製品等)の廃棄を実施したための増加であり、本年度の生産で発生したものではない。単年に発生する産業廃棄物の削減にはこれまで以上に努力していく方針。
節水 ・各工場への節水教育・退出時の見回り実施、節水意識向上	目標: 105,419 m ³ 実績: 86,850 m ³ 121.4 %	雨水の工場排水への混入防止策の実施、および、生産品目の都合上、総排水量は減少した。今後も節水教育、および、更なる雨水の工場排水への混入防止策の継続をしていく。
化学物質使用量の削減 ・PRTR法対象化学物質使用量の確認 ・分析機器移動層の適正量調整 ・移動相使用量削減に向けたHPLC分析法の確立 ・エタノール回収量の把握と管理 ・残渣乾燥機のランニングコスト管理	PRTR法対象化学物質 目標: 1.5 %減 実績: 38.1 %減 エタノール 目標: 3.0 %減 実績: 8.6 %増	生産品目の分析・試験の都合上、PRTR法対象化学物質使用量が大幅に減少したが、今後も管理と削減努力を継続していく。 生産品目の都合上、エタノール使用量が増加した。使用量低減のため、回収量の向上の具体的な対策の立案・実行が必要である。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標: 3品目追加 実績: 3品目追加 100 %	継続的に取り組み、目標を達成した。引き続き、検討および購入を実施していく。
食品廃棄物のリサイクル率の維持 ・リサイクルの推進・動植物性残渣の低減	目標: 80.0 %以上 実績: 98.3 %	継続的に取り組み、目標を達成できている。管理を怠らず実施していく。
地域社会との共生 ・周辺地域の毎月1度の定期ゴミ拾い	達成	毎月の活動を継続できおり、さらなる地域社会の活性化に貢献していく。

東京支社

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・エアコン設定温度の管理・未使用機器の電源を切る	目標: 6.30 t-CO ₂ 実績: 6.88 t-CO ₂ 91.6 %	年々低減はできているが、節減努力を継続していく中で、目標の見直しが必要である。
一般廃棄物の削減 ・裏紙使用によるコピー用紙の削減・書類の紙媒体削減	目標: 307.0 kg 実績: 261.1 kg 117.6 %	前年度からの増加となったが、目標の達成は継続できている。今後も高い意識を持って、削減努力を継続していく。
節水 ・節水の周知徹底、節水機器の設置・退出時の見回り実施	目標: 100 m ³ 実績: 91 m ³ 109.9 %	前年度からの増加となったが、目標の達成は継続できている。今後も高い意識を持って、削減努力を継続していく。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標: 1品目追加 実績: 2品目追加 200 %	継続的に取り組み、目標を達成した。引き続き、検討および購入を実施していく。

総括(全体評価と見直し内容)

従業員一人ひとりのリサイクルや地域社会との共生などへの意識は高く、環境活動の継続的な取組みは評価できる。ただし、生産品目の都合や売上に影響を受けるため、削減に限界がきている項目もあり、目標の再設定が必要である。今後、工場稼働の拡大を目指していく中、次年度はボイラー設備の更新を計画しており、管理強化とあわせて二酸化炭素排出量を節減する。また、エタノール使用量の削減、および、総排水量の削減も次年度の大きな目標であり、PDCAサイクルの運用を強化し、更なる環境負荷の低減に向けた活動に取組んでいく。

2018年度 環境活動計画



2018年度 部門毎取り組み予定

部門	項目	取り組み内容
製造部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ 省電力機器の検討・導入による消費電力の削減
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ ボイラーの更新と蒸気動線の改善およびボイラー管理 ■ 減圧弁・安全弁・バルブ類点検と管理
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物分別の管理
	産業廃棄物の削減	■ 産業廃棄物の分別・整理・管理 ■ 食品廃棄物の分別の徹底及び管理
	節水	■ 工場内の水漏れの定期点検 ■ 工場用水の使用量の把握と管理
	化学物質使用量の削減	■ 使用量の把握と管理
	環境配慮製品の開発・販売促進	■ 課題の把握と管理
事務部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ エアコン設定温度管理の徹底
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ 社用車の走行距離・ガソリン購入量の記録化 ■ 走行距離に応じたメンテナンス実施
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 本社事務所の可燃ごみ重量測定
	節水	■ 使用量の徹底管理(ゲーター更新&集計) ■ メンテナンスによる漏水防止
	グリーン購入の推進	■ 購入品の把握と継続的な購入推進
研究開発部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し ■ 休憩時、退出時等の消灯実施 ■ 裏紙の積極的な利用
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物の重量の把握 ■ ゴミ分別の徹底によるリサイクル率の向上
	産業廃棄物の削減	■ 適正な分別の徹底 ■ 廃液処理手順の見直し ■ ガラス器具の破損防止
	節水	■ 器具洗浄方法の見直し ■ 退出時に見回り、元栓の開閉を実施
	化学物質使用量の削減	■ HPLC移動相の適正量調査 ■ 計画的な購入と無駄の排除
営業部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ エアコン設定温度管理、スーパークールピズ対策 ■ 照明及び未使用機器の節電
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 書類の紙媒体削減、可燃ごみの削減
	節水	■ 節水の周知徹底、節水機器の設置

環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
悪臭防止法	スプレー乾燥機、残渣乾燥機	○(届出、測定)
温対法	全事業所	○(定期報告)
下水道法	全事業所	○(定期報告、測定)
工業用水法	工業用井戸	○(許可、定期報告)
工場立地法	本社・工場	○(届出)
省エネ法	全事業所	○(届出、定期報告)
浄化槽法	浄化槽	○(届出、定期点検)
消防法	工場、蒸留塔、地下タンク 貯蔵所など	○(届出、測定)
振動規制法	工場設備	○(届出、測定)
騒音規制法	工場設備	○(届出、測定)
大気汚染防止法	ボイラー等	○(届出、測定)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物	○(定期報告、 マニフェスト管理)

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
フロン排出抑制法	冷蔵、冷凍コンテナ等	○(該当機器の調査・点検)
食品リサイクル法	食品廃棄物	○(定期報告、 リサイクル率 99.5%)
家電リサイクル法	対象家電機器	○(廃棄実績の確認)
PRTR法	第一種指定化学物質	○(管理)
労働安全衛生法	本社・工場	○(健康診断、環境測定)
毒劇物取締法	毒物、劇物	○(管理)
公害防止組織法	本社・工場	○(届出)
容器包装リサイクル法	容器包装資材	○(申込み)
高圧ガス保安法	高圧ポンプ等	○(管理)
自動車リサイクル法	自動車	○(確認)
化審法	既存第二種監視化学物質	○(管理)
肥料取締法	堆肥場	○(届出、測定)

違反、訴訟等の有無

上記のように環境関連法規制等の違反はありません。また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は98.3%と維持できています。
なお関係当局からの違反等の指摘は、過去7年間ありません。

代表者による評価と見直し

総括

エキス製品の生産増に伴い従来の省エネ活動の継続と推進では温暖化ガスの排出抑制が難しくなっている。2018年はボイラー設備へ投資し、全面的に更新する。これによりエネルギーの合理化と省エネを実現する。また、グリーン購入に関しても引き続き積極的に推進する。産業廃棄物においては、2017年度に行った構内の不要物撤去を継続するため2018年度も前年度同程度の廃棄量が見込まれる。地域社会との共生、コンプライアンスの遵守は、企業市民として今後ますます社会から求められるものであり、社会の期待に沿えるよう全社的に取り組んでいく方針。